

平成27年度

福島県環境審議会 全体会 議事録

(平成27年9月2日)

## 1 日 時

平成27年9月2日(水)

午後 1時30分 開会

午後 2時55分 閉会

## 2 場 所

中町ビル2階会議室

## 3 議 事

### (1) 審議事項

福島県環境基本計画の環境指標の一部変更について

### (2) 報告事項

ア 福島県環境基本計画の進行管理(平成27年度版福島県環境白書)について

イ 福島県環境教育等行動計画の進行管理について

## 4 出席委員

河津賢澄 菅野篤 崎田裕子 佐藤俊彦 清水昌紀 菅井ハルヨ

高荒智子 長林久夫 馬場孝允 細谷寿江 油井妙子 芳見弘一

和合アヤ子 和田佳代子

(以上14名)

## 5 欠席委員

石田順一郎 市川陽子 大迫政浩 中野豊 橋口恭子 山口信也 渡邊明

(以上7名)

## 6 事務局出席職員

長谷川 生活環境部長

阿部 生活環境部政策監

(危機管理部 危機管理総室)

小田島 放射線監視室副課長兼主任主査

(生活環境部 生活環境総室)

佐々 生活環境総務課長

大江 生活環境部企画主幹 他

(生活環境部 環境共生総室)

荒井 環境共生課主幹

田村 自然保護課主幹兼副課長

志田 水・大気環境課主幹兼副課長

橘 環境創造センター整備推進室主幹

(生活環境部 環境保全総室)

鈴木 一般廃棄物課主幹

小池 産業廃棄物課主幹兼副課長

阿部 中間貯蔵施設等対策室主幹

長塚 除染対策課主幹兼副課長

## 7 内容

(1) 開会 (司会：柏倉生活環境総務課主任主査)

(2) 挨拶 長谷川生活環境部長

(3) 議事録署名人

議事に先立ち、長林会長から議事録署名人として和合委員と和田委員が指名された。

(4) 審議事項

事務局（佐々生活環境総務課長）から資料1-1、資料1-2により、福島県環境基本計画の環境指標の一部変更について説明し、了承された。

(5) 報告事項

事務局（佐々生活環境総務課長）から資料2-1、資料2-2及び資料3により、福島県環境基本計画の進行管理（平成27年度版福島県環境白書）及び福島県環境教育等行動計画の進行管理について説明し、以下の質疑等があった。

【和田委員】

今後、中間貯蔵施設への本格的な輸送に伴い、膨大なトラックが行き来することになる。大気汚染物質への対策についても検討したほうがよいのではないか。

【阿部中間貯蔵施設等対策室主幹】

現在、中間貯蔵施設へのパイロット輸送を実施している。パイロット輸

送は、本格輸送に向けて、発生する様々な課題を検証しながら実施していくもの。委員からの意見は、国と調整するうえで、参考にしたい。

**【和田委員】**

放射性物質のことばかりに目が行きがちであるが、窒素酸化物等の汚染物質についても検討をお願いしたい。

**【志田水・大気環境課主幹兼副課長】**

福島県内38地点に大気汚染の監視測定局があり、大気を24時間監視している。その結果を注視していくとともに、今後は、移動測定車を用いて観測することも検討していきたい。

**【菅野委員】**

環境白書一本編-39ページの環境指標17「再生可能エネルギーの導入量」について、コメント欄で「目標達成には更なる大規模設備の導入が必要である。」とあるが、太陽光設備の普及が進むなかで、電力会社が買い取りを抑制している状況もある。太陽光に偏らない対策が必要ではないか。

**【佐々生活環境総務課長】**

再生可能エネルギーについては、様々な課題があがってきたところ。本県としては、将来的に再生可能エネルギーで賄うという意欲的な目標を掲げているなかでの取り組みとなる。

エネルギーを効率的に確保し、活用していくかは、大きな課題であるという理解のもと、関係機関と調整している。

**【菅野委員】**

環境の変化等により、太陽光、風力発電設備の導入を単純に進めていく状況にないと思うが、今後どう転換させていくのか伺いたい。

**【佐々生活環境総務課長】**

例えば、風力発電については、野生生物との関係や景観との関係など、ようやく環境アセスの項目になったところであり、様々な課題が示されているのも確かである。特に大規模設備になると、その影響は大きくなるため、従来の環境と、望ましき環境とをどうマッチングさせていくかは、まず考えなければならない点である。

単なる電気を生むだけではなく、様々な課題についても総合的な検討が事前になされるべきという理解のもと、検討が進められているところ。

**【崎田委員】**

電気を作るだけではなく、使うことも含めて総合的に考えていく、ということには、自立型地域づくりや、都市部であればスマートコミュニティ

が含まれていると思われる。

再生可能エネルギーとのバランスをとるため、水素エネルギーを活用するなど、様々な手法を総合的に検討していると思うが、全体像を構成しながら、2040年に向けた道筋を県民の方に具体的かつ早期に示していただきたい。

**【長林委員】**

自然エネルギーだけに頼っては、再生可能エネルギーの普及は進展しないため、全県をあげて施策の転換を図っていくことに期待する。

**【河津委員】**

環境白書が見やすくなったと感じているが、環境指標によって初年度が異なっている。それを統一させる必要はないが、震災前の状況を追加すると、さらに見やすくなると思われる。来年度工夫していただきたい。

また、放射線モニタリングについて、私が研修会等で用いるデータは、それぞれの地域の経年変化がわかるもの。最近では、モニタリングのシステムが変わったためか、表示されるまで非常に時間がかかる。せつかくのデータを県民へ公表しているのだから、その原因等がわかれば伺いたい。

**【小田島放射線監視室副課長兼主任主査】**

ホームページ上のモニタリングデータが見づらいという点は、我々も把握しており、今年度の事業で、ホームページのリニューアルを考えている。負担を軽くし、見やすくすること、あわせて放射線量が事故後からどのように減衰しているかの経時的変化を表現することを検討している。

**【清水委員】**

住宅除染について、仮置場に搬入される場合と、敷地内に仮保管されている場合とがある。敷地内の仮保管では、居住者の不安が続くと思うが、そのような指標等は把握しているか。また、そのことを念頭において、今後、何かしらの方向性を考えているのか伺いたい。

**【長塚除染対策課主幹兼副課長】**

平成27年3月末時点において、除染実施計画に基づく仮置場は791箇所、現場保管は102,093箇所である。現場保管により、居住者の不安があることは承知しているが、構造上は、しっかりとした技術上の基準を満たすように設計をしたうえで、現場保管をしている。

仮置場が不足しているために、やむを得ず現場保管をしている状況であり、仮置場が不足している地域は、早期に設置すること。そして、1日も早く現場保管や仮置場から中間貯蔵施設へ搬入する取組を進めたい。

**【崎田委員】**

3年間で市町村除染を進めていく流れのなかで、市町村によって進み方が異なっている状況もある。全体の除染を進めていくうえで、市町村が前向きに取り組んでいけるような指標やデータを載せられないものか。

**【長塚除染対策課主幹兼副課長】**

市町村の除染の進捗状況を表す指標はなかなか難しいが、市町村除染は、市町村が除染実施計画に基づいて進めており、これだけの膨大な面積を除染するという取組は世界的にも例がない。

県としては、市町村との意見交換会や、技術的な専門研修を頻繁に開いており、これらの取組を通して、悩みを聞きながら、市町村と一体となって取り組んでいきたい。

**【崎田委員】**

福島県環境創造センターについて、特に交流棟には、福島県内の放射線学習の中心として、また、全国の自治体が、この問題にどう取り組むかの情報発信の中心地になっていただきたい。

できれば、そういったプログラムを開発して、全国の自治体の放射線担当者は、1年に1回、必ず交流棟で研修を受けなければならないなど、そのくらいの存在になることを期待する。

**【橘環境創造センター整備推進室主幹】**

交流棟は平成28年度の開設に向けて整備を進めている。現在、県内の小学校5年生に一度交流棟に来てもらい、放射線の学習や、循環型社会形成等の環境創造について学んでいただくことを検討している。

委員からも意見があったように、県外の方や、子ども以外も訪れるようなPR活動を続けていきたい。

**【高荒委員】**

子どもへの環境教育や指導者育成に力を入れているように感じるが、例えば、森林の有効活用については、実際に現場で動ける人材育成も必要だと考える。次世代の実践型の人材を育成する取組も有効ではないか。

**【佐々生活環境総務課長】**

具体的にどう森林に手をかけるのか、そのためにどういう人材を育てるのか、それを生業とすることも含めて、県として必要なことだと考えている。関係部局と連携して進めていきたい。

**【和田委員】**

環境教育副読本は、絵やイラストが多用されており、子どもだけではなく、親にも読んでいただける内容だと感じた。

できれば、9ページに特定外来種の写真を追加していただきたい。多くの方にとってもらうためにも、来年度以降、作成する際に検討をお願いしたい。

**【佐々生活環境総務課長】**

環境副読本の作成を開始してから2年目となる。福島の子供たち、そして家庭でご覧になることも考え、よりわかりやすくするという観点で進めたい。

これに関連して、現在、学校で使いやすいようにワークシートを作成しており、今後は、ホームページへの掲載等を通して学校へ提供する。そのような機会もあるため、何か気づきの点があればお知らせ願いたい。

**【佐々生活環境総務課長】**

本日、欠席の石田委員から環境白書に関して事前意見があったので、事務局より考え方を示したい。まず、文言の修正や加筆等に関する意見については、委員の意見を踏まえ、修正、加筆を行いたい。また、その他の内容については担当課より回答したい。

**【荒井環境共生課主幹】**

環境白書一本編－35ページの環境指標8「温室効果ガス排出量」について、内容が多く見づらいため「京都メカニズムや森林吸収を含めた調整後排出量」、「実証値」、「目標値」の3項目に限定すべきという意見と、平成25年度以降のデータはないのか。という意見があった。

項目については、事業所も含めた県民全体の実際の排出量は重要であるため、記載は現在のとおりとするが、グラフの表示方法は検討する。

平成25年度以降のデータがないことについては、算定に必要な平成25年度の都道府県別の統計資料（エネルギーバランス表）がまもなく発表される見込みであり、この資料が出てから計算するため、今年12月頃になる状況である。

**【田村自然保護課主幹兼副課長】**

環境白書一本編－52ページの環境指標41「生物多様性について理解している人の割合」において、目標値と実績値が大きく乖離しているが、目標値をどのように設定したのか。また、乖離が大きい理由をどのように考えているか。という意見があった。

目標値は、震災以前にアンケート調査を実施して検討した結果である。また、理解が進まない理由は、県のPR不足は当然であるが、震災の影響等により、生物多様性への関心が薄くなったことが考えられる。引き続き、様々な形でPR活動を続けていきたい。

**【志田水・大気環境課主幹兼副課長】**

環境白書一本編－63ページの環境指標56「公害苦情件数」において、平成24年以降、目標値と実績値の乖離が大きくなったが、その理由をコメント欄に記載すべきという意見と、平成25年以降の目標値は平成24年以降の苦情件数の増加を踏まえた目標値なのか。という意見があった。

平成24年以降は、震災の影響により雑草等の繁茂や害虫発生など、典型7公害以外の苦情が増加していたためであり、また、平成25年以降の目標は、良好な環境を達成するために掲げたものである。

**【長林会長】**

今後の加筆、修正の期間について、見通しを伺いたい。

**【佐々生活環境総務課長】**

今月中に作業を進めたい。

**【佐藤委員】**

環境教育副読本の17ページ「除染で出た土や廃棄物はどうなるの？」について、廃棄物という表現は、読む人によって放射性物質が含まれた廃棄物以外にも、一般の廃棄物を含めて受け取られる可能性がある。汚染廃棄物と記載したほうが正確ではないか。

**【長林会長】**

今後、事務局で対応願いたい。

**(6) その他**

**【大江生活環境部企画主幹】**

事務局（大江生活環境部企画主幹）から、資料4により、平成27年度福島県環境審議会の年間スケジュールについて説明が行われた。質疑等はなし

**(7) 閉会**